

第196期 報告書

2024年4月1日
▼
2025年3月31日



株主の皆様へ

株主の皆様には、
平素は格別のご支援を賜り
厚くお礼申し上げます。

代表取締役社長 **田中 寿**

第196期報告書（2024年4月1日～2025年3月31日まで）をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の我が国経済は、企業収益の改善等により景気は緩やかな回復の動きが見られましたが、継続的な物価上昇や通商政策など米国の政策動向等による影響を注視する必要があります。依然として先行きが不透明な状況が続いております。このような経営環境のもと、当連結会計年度の当社グループの業績は、鉄道車両事業、建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業の売上が増加したことなどにより、売上高は前連結会計年度比9.4%増加の96,340百万円となりました。また利益面につきましては、建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業の利益が増加したことなどにより、営業利益は前連結会計年度比14.4%増加の6,935百万円、経常利益は前連結会計年度比15.7%増加の7,297百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比19.2%増加の6,416百万円となりました。

当期の期末配当につきましては、今後の財務状況及び連結業績などを総合的に勘案した結果、期首に公表した予想を変更し、5円増配の1株あたり20円とさせていただきます。また、次期の配当につきましても、「長期的に安定配当を維持していく」基本方針を踏まえ、中間配当、期末配当ともに1株あたり20円とし、年間40円を予定しております。

今後につきましては、継続的な物価上昇などにより引き続き厳しい経営環境が継続することが見込まれますが、そのような中でも、品質向上や低コスト化、業務の効率化を更に推進し、経営体力の強化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き何卒ご理解、ご支援を賜りたく、心からお願い申し上げます。

2025年6月

鉄道車両事業

【売上高】 **44,746百万円**（前期比10.2%増加）

JR東海向け及びJR西日本向けN700S新幹線電車やJR東海向け315系電車のほか、東京都交通局向け電車、名古屋鉄道向け電車などの売上があり、公営・民営鉄道向け車両の売上が増加したことなどにより、増収となりました。

JR 東海・JR 西日本 N700S 新幹線

2020年7月から営業投入されている東海道・山陽新幹線の最新型車両です。当期は、JR東海向けに5編成、JR西日本向けに1編成を納入しました。

東海道新幹線は、2024年10月に開業60周年、山陽新幹線は2025年3月に全線開業50周年を迎え、さらなる発展を続けており、JR東海ではN700Sの追加投入をはじめ、グリーン車よりも上質な設備・サービスを備えた個室や上級クラス座席を導入することが発表されました。また、JR西日本ではN700Sの追加投入や個室の導入に加え、N700系16両編成を8両編成化する改造工事について発表されました。

当社は、鉄道事業者様のニーズをしっかりと捉え、車両の設計・製造を通じて、新幹線鉄道の発展に貢献してまいります。



JR東海 315系

2022年3月から営業投入されているJR東海の新型通勤車両です。当期は4両編成を16編成納入しました。



東京都交通局 12-600形 5次車

2025年3月に営業運転を開始した東京都交通局の大江戸線新型車両です。当期は8両1編成を納入しました。

名古屋鉄道 9500系／9100系

名古屋鉄道の新型通勤車両で、2019年以降、現在までに累計80両を納入しました。当期は4両編成の9500系を1編成、2両編成の9100系を2編成納入しました。

これまでは先頭車の正面貫通扉は非常用でしたが、当期新造車より正面貫通扉を中央に配置し将来的に連結運転時の通り抜けを可能とする構造としました。また、携帯通信網の利用により、車内防犯カメラの映像を運転指令でリアルタイムに確認できる機能を新たに追加するなど、乗客の安全確保に向けた仕様変更が行われています。

当社は、鉄道事業者様のニーズをしっかりと捉え、これからも車両の設計・製造を通じて、乗客の安全性、利便性の向上に貢献してまいります。



京成電鉄 3200形

2025年2月に営業運転を開始した京成電鉄の新型通勤車両です。当期は6両を納入しました。



JR 四国 レール運搬車

2025年3月に運用を開始したJR四国のレールを運搬する事業用車両です。当期は2両1編成を納入しました。

建設機械事業

【売上高】 **22,809百万円**（前期比7.6%増加）

国内向けの大型杭打機や部品等の売上が増加したことなどにより、増収となりました。

DHJ45-5RC120

全回転チューピング装置が持つ掘削力と小型杭打機が持つ機動性の両立を実現する新機種DHJ45-5RC120を開発し、販売を開始いたしました。

本機は構成・外観こそ既存の「全回転チューピング装置」及び「小型杭打機」の意匠を踏襲するものですが、これらの機能を一体化するとともに操作系統・制御系統を一新し、電子制御化にて敷地内での有線または無線による全遠隔操作を可能としました。

全回転チューピング装置の障害撤去機能に小型杭打機の自走機能を付与したことで、より機動的・効率的な障害撤去施工の実現に貢献する機械となっております。

今回の開発で得た知見を次世代杭打機の開発にも反映し、引き続きお客様のニーズにお応えする製品開発に努めてまいります。



技能講習用杭打機 DHJ08-7M

登録教習機関向け「車両系建設機械（基礎工事用）運転技能講習用DHJ08-7M（指導教官用キャブ装備）」を製作・販売いたしました。

本機をはじめ、今後も社会に貢献する製品づくりに努めてまいります。



大型杭打機の販売伸長

関東圏における大型都市再開発の継続、夢洲エリアはじめ関西圏ならびに各都市部の開発／再開発需要を背景に、当期は国内向け大型杭打機の販売が伸長いたしました。

輸送用機器・鉄構事業

【売上高】 **22,182百万円**（前期比20.4%増加）

LNGタンクトレーラや道路橋の売上が増加したことなどにより、増収となりました。

輸送用機器

タキ1300形式 セメントタンク車

2025年2月に太平洋セメント株式会社向けタキ1300形式セメントタンク車の試作車が、各種性能試験を終え、運用開始を迎えました。本形式は老朽化したタキ1900形式の置き換えを目的として開発され、セメント運搬用タンク車としては約40年振りの新車となります。

1両で39tのセメントを積むことができ、1編成（最大16両）で運べるセメントの総量は624tにもなります。鉄道貨物による大量輸送を実現することで、トラックドライバ不足や、CO₂排出量削減にも大きく貢献しております。



直胴LNGタンクセミトレーラ

真空断熱のセミトレーラで、液化天然ガスを超低温（-161℃）のまま、安全・経済的に輸送します。



民生用バルクローリ

集合住宅や飲食店に設置される小型タンクにプロパンガスを配送する車両です。1997年の販売開始から2,000台以上を製造しております。

鉄構

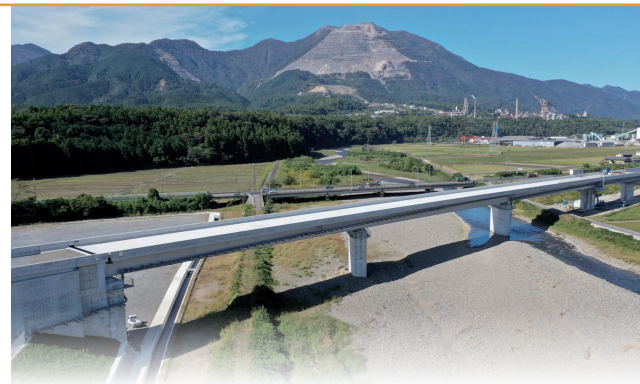
員弁川橋

国道475号東海環状自動車道は、愛知県・岐阜県・三重県の3県に跨る延長約153kmの高規格幹線道路であり、2025年4月時点で全体の8割強である127.8kmが開通しております。

本工事「員弁川橋」は川幅100mを超える員弁川を跨ぐ、橋長217mの鋼桁の製作・架設工事であり、当該区間「いなべIC～大安IC」は2025年3月29日に開通しました。

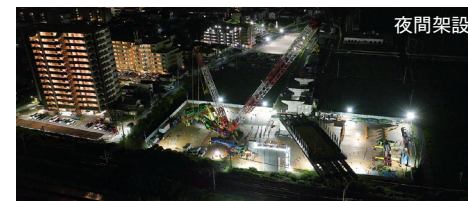
現地架設では渇水期に両岸瀬替えを行い、河川内ヤードからベント併用トラッククレーン（クローラークレーン）工法にて架設しました。

堤防道路通行止め規制など地元住民の方々にご理解・ご協力をいただき、無事故無災害で2024年10月に竣工したことに加え、夏休みに実施した小学生向け親子見学会の実施など地域貢献活動についても発注者である国土交通省より高く評価いただきました。



須崎橋他2橋上部工工事

2025年3月23日に、西九州自動車道（佐世保道路）（佐々IC～佐世保中央IC）における4車線化、供用が開始されました。当社が施工した橋梁は須崎橋、木場川橋、口石大橋です。そのうち口石大橋は、夜間に80m級の支間を送出し架設方法で施工しました。



夜間架設



架設後

逢妻Bo架設工事

JR東海道本線の大府・逢妻駅間上部を通る跨線道路橋の架設工事です。鉄道の運行に支障をきたさないよう、跨線部は夜間に大型クレーンを用いて一括架設を行いました。

エンジニアリング事業

【売上高】 6,548百万円（前期比 15.5% 減少）

鉄道事業者向け機械設備のほか、各地のJA向け営農プラント、家庭紙メーカー向け製造設備などの売上がありましたが、鉄道事業者向け機械設備の売上が減少したことなどにより、減収となりました。

JA 庄内みどり向け 松山カントリーエレベーター 水害復旧工事

エンジニアリング本部では、JA 向け営農プラントを長年にわたり取り扱っております。

2024年7月25日に山形県酒田市で発生した線状降水帯による豪雨により、JA 庄内みどり管内の松山カントリーエレベーターが2メートル水没する被害を受けました。被災直後は施設の使用を諦めざるを得ない状況でしたが、被災を免れたエリアでの刈り取りは例年通り行われるため、最終的には「施設を仮復旧して稼働させる」という方針に決定し、当社に対して復旧への協力依頼がありました。

農協と協力して仮復旧の範囲を決定し、稼働開始を2024年10月1日と決めました。水が引いた8月初旬から、施設内の片付けや清掃を開始し、水没した機器の分解清掃や部品交換を進め、試運転を実施しました。その結果、2024年10月1日に無事に稼働を開始することができました。農家の方々が丹精込めて作られたお米を収穫し、無事に乾燥調製できたことは大変意義深いと考えています。

現在、2025年度の稼働に向けて本復旧工事を進めており、お客様の満足を得られるよう全力で取り組んでまいります。



▲ 浸水した松山カントリーエレベーター

次期の見通し

次期連結業績見通しは、足元の経営環境等を踏まえ、売上高93,000百万円、営業利益5,600百万円、経常利益5,900百万円、親会社株主に帰属する当期純利益5,900百万円をそれぞれ予想しております。

売上高は、鉄道車両事業で増加する一方で、建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業及びエンジニアリング事業が減少することから減収となる見通しです。

利益については、主に建設機械事業で減益となることから、全体として減益となる見通しです。これを踏まえ、品質向上や低コスト化、業務の効率化を更に推進し、経営体力の強化に努めてまいります。

第196期の概況

売上高 鉄道車両事業、建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業の増収により、全体として増収。

営業利益 建設機械事業、輸送用機器・鉄構事業の利益が増加したことなどにより、全体として増益。

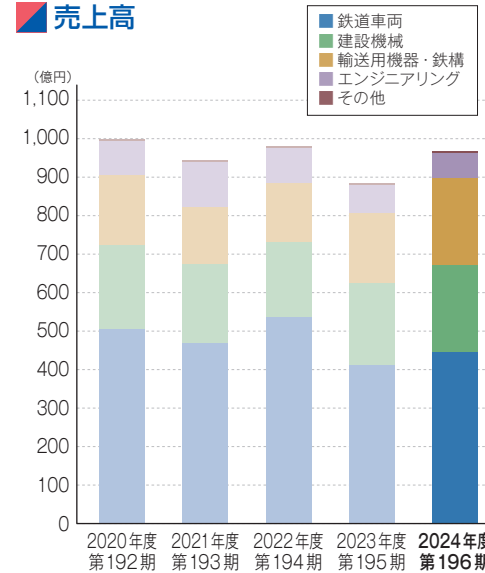
親会社株主に帰属する当期純利益 営業利益の増益により、増益。

	2020年度 第192期	2021年度 第193期	2022年度 第194期	2023年度 第195期	2024年度 第196期
売上高 (百万円)	99,448	94,022	97,969	88,058	96,340
営業利益 (百万円)	9,047	6,237	4,461	6,060	6,935
経常利益 (百万円)	9,301	6,317	4,494	6,306	7,297
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	7,928	5,226	3,118	5,381	6,416
1株当たり当期純利益 (円)	549.31	362.14	216.08	372.93	444.62
自己資本当期純利益率 (%)	19.9	11.2	6.3	9.5	10.1
総資産経常利益率 (%)	7.0	4.7	3.5	4.8	5.5
売上高営業利益率 (%)	9.1	6.6	4.6	6.9	7.2
総資産額 (百万円)	136,595	132,868	124,363	136,397	131,164
純資産額 (百万円)	45,288	48,018	51,123	62,228	64,648
1株当たり純資産 (円)	3,128.24	3,316.74	3,531.25	4,312.21	4,480.23
自己資本比率 (%)	33.1	36.0	41.0	45.6	49.3

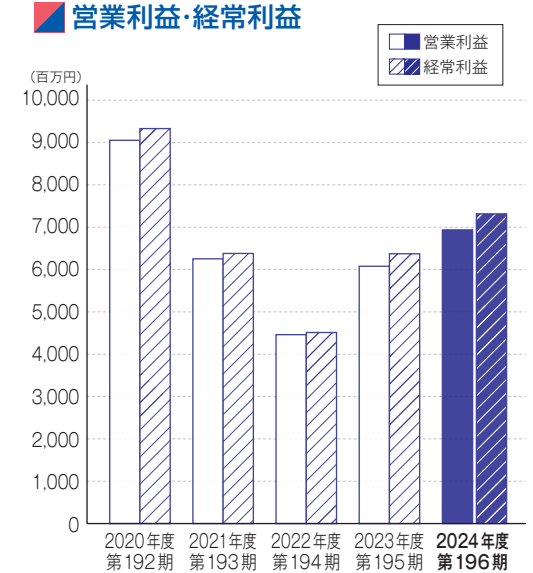
事業別 売上高

(百万円)	2020年度 第192期	2021年度 第193期	2022年度 第194期	2023年度 第195期	2024年度 第196期	2024年度末 受注残高
■ 鉄道車両	50,486	47,958	53,341	40,614	44,746	102,791
■ 建設機械	21,645	20,185	19,882	21,206	22,809	19,538
■ 輸送用機器・鉄構	18,500	13,855	15,528	18,422	22,182	37,053
■ エンジニアリング	8,738	11,957	9,155	7,746	6,548	3,785
■ その他	77	65	61	68	52	—
合計	99,448	94,022	97,969	88,058	96,340	163,169

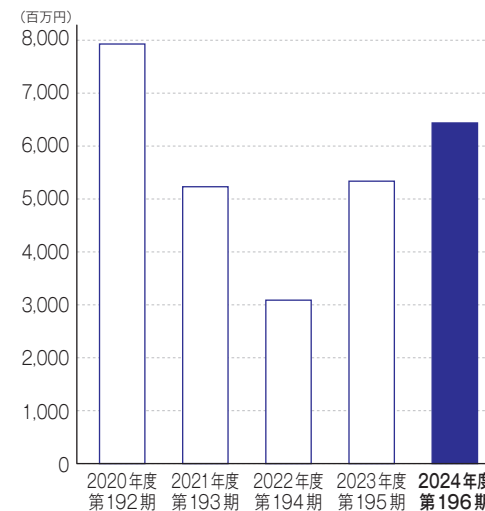
売上高



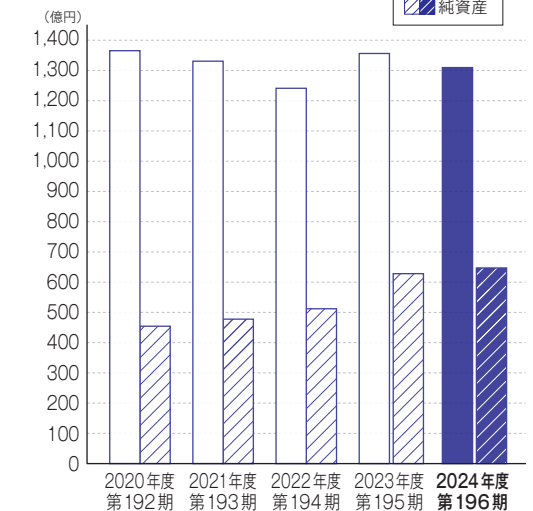
営業利益・経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



総資産・純資産



リニア・鉄道館とのコラボ企画展 豊川製作所の歴史～東海道新幹線とともに～

2025年1月29日から5月6日までの約3か月間、リニア・鉄道館にて「豊川製作所の歴史～東海道新幹線とともに～」をテーマに、コラボ企画展を開催しました。

2024年は東海道新幹線開業60周年、豊川製作所開所60周年を記念する年にあたり、新幹線とともに歩んできた豊川製作所の歴史や技術力をパネルや映像などで紹介しました。特に溶接については材質や施工方法が異なる溶接サンプルを展示し、溶接技術の変遷と当社の技術力の高さをアピールしました。

また、鉄道車両事業以外の当社の取り組みを紹介するコーナーを設けて杭打機の模型を展示したほか、ご来場者の記念撮影コーナーとしてN700S先頭車がクレーンで移動している様子を映した大型写真も設置しました。

鉄道の魅力を再発見する機会となるよう、鉄道ファンはもちろん、ご家族連れにも楽しんでいただける多彩な展示や体験コーナーを用意して来場者をお迎えしました。



米国基礎業界の総合展示会「IFCEE EXPO」へ出展

2024年5月7日から5月10日まで米国における基礎機械市場調査の一環として、米国テキサス州ダラスで開催された基礎業界の総合展示会「IFCEE EXPO」に出展いたしました。

ゼネコン・基礎施工業者・機械メーカーのほか様々な業種から参加があり、当社の展示についても想定以上のご来場をいただきました。

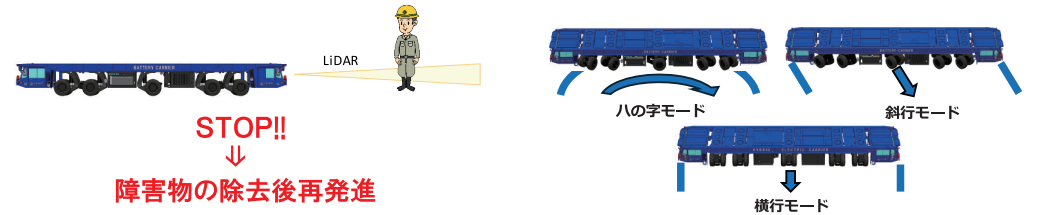
引き続き米国をはじめ、海外市場の深耕に努めてまいります。



大型自走式キャリア向け自動運転システム（N-SEMAC）の開発

工場構内での重量物運搬における人手不足というお客様の課題にお応えすべく、大型自走式キャリアの自動化システム（N-SEMAC）を新たに開発しました。

N-SEMACは無人搬送車で培った「車両制御技術」と最新の「センシング技術」を融合したシステムです。N-SEMACの特徴は、「高い走行精度」、「柔軟な走行性」、「安全性の確立」です。この3つの特徴を生かして、工場構内の狭い場所でも自由自在に自動運転を実現します。本システムは2025年1月にプレス発表を行いました。今後は営業活動を通じて普及に向けた取組みを進めてまいります。



障害物検知機能
(人や障害物を検知すると自動的に停止)

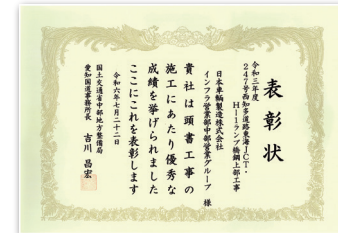
小回りの利く走行性も自動運転で実現
(狭い環境でも効率的で安全な構内物流を達成)

優良工事事務所長表彰及び工事成績優秀企業認定

中部地方整備局発注「令和3年度 247号西知多道路東海JCT・H-1ランプ橋鋼上部工事」が優良工事として評価され、「優良工事事務所長表彰」を受賞しました。

また、過去2年間の工事成績が優秀であったため、中部地方整備局より「工事成績優秀企業」の認定を受けました。

これらの表彰及び認定は全て当社の品質確保や工程管理への活動が高く評価されたことを示しております。今後も高品質の社会インフラに寄与できるよう取り組んでまいります。



株主様向け工場見学会開催

2025年3月20日に、株主の皆様へ当社の事業内容へのご理解を一層深めていただくことを目的として、当社の鉄道車両事業の生産拠点である豊川製作所にて株主様向け工場見学会を開催しました。

当日は16組32名の株主様・同伴者様にお越しいただき、普段はご覧いただくことができない鉄道車両の製造現場を特別にご見学いただきました。見学を通して、当社の製品や品質へのこだわり、技術力の伝承、社員の熱意などといった、当社の最高品質のものづくりを感じていただきました。また、見学後の質疑応答では、今後の成長戦略や当社製品に関するご質問等を幅広くいただき、株主の皆様と交流を図ることができました。

今回、初めて開催した工場見学会でしたが、今後も株主の皆様へ当社を身近に感じていただき、当社事業へのご理解をより深くいただくための取組を企画してまいります。

第4工場（構体組立）

N700Sの先頭構体の溶接作業や完成した先頭構体のヘッド部分と中間構体を見学いただきました。



▲塗装前先頭構体の見学



▲モニターを通じた溶接作業の見学

試運転添乗

JR東海へ出荷前の315系に実際に乗車していただき、試験線を時速20kmで走行しました。



▲車両の見学



▲車内説明の様子

「名証IR EXPO 2025」に出展予定

当社は、2025年9月5日、6日に吹上ホール（名古屋市）で開催予定の『名証IRエキスポ2025』に今年も出展いたします!!

名証IRセミナーオンライン「個人投資家向け企業説明会」登壇

2025年3月18日に名古屋証券取引所が主催する名証IRセミナー オンライン「個人投資家向け企業説明会」に代表取締役副社長 子安陽が登壇しました。

当日は、200名を超える多くの投資家の皆様へ当社のプレゼンを聴講いただき、当社の各事業の概要や技術開発に関する取組み、業績等についてご説明しました。聴講者の皆さまからは当社の成長戦略やデジタルに関する取組みなど幅広い分野のご質問をいただきました。本セミナーへの登壇を通じて、当社の事業概要や技術力のみならず今後の成長性もPRすることができました。

今後も一層の企業価値の向上に努めてまいります。



▲プレゼン資料とセミナーの様子

あいち創業館

2024年11月1日にオープンしたSTATION Ai内のあいち創業館にて、明治期を中心に500社以上の創業や経営に関わり、「名古屋の渋沢栄一」と称された当社の創業者である奥田正香について、その名言とともに紹介されています。STATION Ai内あいち創業館にお出かけの際は是非ご覧ください。



▲奥田正香



▲STATION Ai あいち創業館



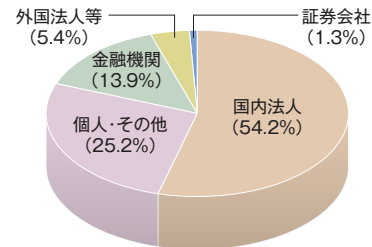
▲奥田正香の紹介

会社の概要

商号	日本車輛製造株式会社 英文：NIPPON SHARYO, LTD.
創立	明治29（1896）年9月18日
決算期	3月31日
資本金	11,810百万円
従業員数	2,104名
主な子会社	(株)日車エンジニアリング、NIPPON SHARYO MANUFACTURING, LLC、 重車輛工業(株)、(株)日車ビジネスアソシエーツ

株式の状況

発行可能株式総数	32,800,000株
発行済株式の総数	14,675,012株
株主数	11,409名



取締役・監査役及び執行役員（2025年6月27日現在）

代表取締役 取締役社長	田中 守
代表取締役 専務取締役	深谷 道一

常務取締役	阿彦 雄一
常務取締役	富田 庸公
取締役(社外)	新美 篤志
取締役(社外)	加藤 倫子
取締役(社外)	西畑 彰

常勤監査役(社外)	上田 素之
常勤監査役	平岩 寿朗
監査役(社外)	福泉 靖史
監査役	臼井 俊一

大株主

株主名	持株数(千株)
東海旅客鉄道株式会社	7,352
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	914
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	339
日本車輛従業員持株会	288
村松 俊三	259
日本車輛製造株式会社	244
株式会社三菱UFJ銀行	202
日本生命保険相互会社	129
三井住友信託銀行株式会社	117
JP MORGAN CHASE BANK 385781	94

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
株主名簿管理人／ 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人／ 事務所取扱場所	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	電話 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00（土・日・祝日および12/31～1/3を除く）

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く）で行っております。

■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様のお取引口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社にお取引口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

2025年度(2025年4月～2026年3月)スケジュール

2025年	6月 27日	第196回 定時株主総会開催
	7月 下旬	第197期 第1四半期決算発表
	9月 30日	中間配当基準日 株主優待品割当基準日
	10月 下旬	第197期 中間決算発表
	12月 上旬	株主優待品送付 2025年9月末日時点で当社株式を1単元（100株） 以上保有の株主様へお送りします。 株主優待品は、オリジナルカレンダーを予定しております。
2026年	1月 下旬	第197期 第3四半期決算発表
	3月 31日	定時株主総会議決権基準日



日本車両オリジナルカレンダー
※実際のデザインとは異なります。

日本車輛製造株式会社

〒456-8691 名古屋市中熱田区三本松町1番1号
TEL. 052-882-3316
<https://www.n-sharyo.co.jp/>